

## 平成22年度 元気な地域づくり 活動報告会

平成22年12月13日（木）13:30～16:00

横浜市健康福祉総合センター 4階ホール

### 事例発表

地区 都筑区 池辺地区

テーマ 「池辺地区 元気づくりの取組」

発表者 くりはら かつひと 栗原 克人 さん（都田中学校PTA会長）

**栗原** みなさん、こんにちは。私は池辺町元気づくりモデル事業協議会の事務局を行っている栗原です。これから平成21年、22年にかけて私たち池辺町が行った元気づくりモデル事業を、「好きです池辺」と題して発表を行っていきます。どうぞよろしくお願ひします。

まず最初に、私たちの住む池辺町から御説明します。この図を見てください。池辺町の位置は、今年20万人を突破した横浜市都筑区の南にあり、中心部にはまだ新しい町、港北ニュータウンがあります。このスライドを見ていただくと分かる通り、池辺の上半分は山林、畑など緑が多く、下半分には工業地帯、住宅街が広がっています。そして新たに大型ショッピングセンターの「ららぽーと」をはじめ、パークシティ LaLa など新しい住宅ができ、昔からいる人たちと新しく住み始めた方々が入り混じった町です。

このような池辺町ですが、昔からある谷戸ごとに自治会があります。このスライドにある10の自治会が集まって、池辺町連合自治会を構成しています。今回はこの10の自治会が集まって協議を行いました。

次にこのグラフは平成16年から21年の池辺町連合自治会全体の世帯数及び自治会加入数の変化を表したグラフです。見てのとおり、これまで緩やかな増加でしたが、平成20年度から急に増加していることが分かります。これはパークシティ LaLa とその周辺に新しい建物ができたためです。そしてこの赤いグラフは、自治会の加入者数を表したのですが、横ばいであることが分かります。

次にこのグラフを見てください。これは年齢別にどの年齢の人たちが池辺町に住んでいるかを平成16年と21年を比べたグラフです。この部分ですが、0歳児から大体11歳ぐらい、それと30歳から40歳ぐらいの子育て世代が急速に増えたことが分かります。このような中で池辺町では昔からある課題も含めて、さらに新しい次のような地域の課題が問題となってきました。

マンション建設などによる新住民の急増、未就学児の急増による支援活動の不足、自治会への入会をどう進めるかの問題、大型店出店に伴う交通量・交通事故の増加、子供たちの非行問題、これは親たちの問題もあると思います。このほかにたくさんあるのですが、

ここに挙げたものは主なものです。

このような課題が増えてきた中で、区役所から町を活性化する事業として、元気づくりモデル事業を行わないかと提案があり、その呼び掛けに応じることとなりました。初めはどのような活動を行うか、地域の代表が検討を重ね、新住民の皆さんに池辺町をもっとよく理解してもらい、そして地域の一員として活動してもらい、地域が一体となって子供たちの成長を見守る取組を始めることとなりました。

このスライドは先ほどの課題からこの事業の目標に挙げたものです。

既存の事業を整理して継続できる事業にする。新しい住民との対話と交流を行う。池辺町を好きになってもらう。親の意識を高める。地域の連帯感を高める、です。

池辺町は昔からある町ですので、既に多くの事業を行っています。その中で新しい事業を始めることは、後のことを考えると大変なことになりますので、なるべく既存の事業を利用して行うこととしました。そして新しい住民と接していくことを目標としました。

この図は元気づくりモデル事業の組織図を表したものです。主に学校・家庭のつながり部会、地域のつながり部会に分かれて活動しました。実際には事業ごとに中心となる部会はあるのですが、連携を取りながら一緒に行っています。

これが今年度行った取組です。具体的にはこの後説明していきますが、この事業を進めるに当たって一番大事なことは、誰でも参加できるということです。今までの事業は自治会費で賄っていることから、自治会加入者以外の参加は難しかったのですが、今回は元気づくりの予算があることから制限をなくして、誰でも参加できるようにしたのです。まず参加してもらい、自治会が行っている事業を知ってもらうこととしました。

それでは、これから今年度行った事業を説明していきますが、その前に、この事業を始めるに当たり、池辺町のシンボルマークを作ろうということになり、シンボルマークの募集を行いましたので紹介します。募集は町内にある都田小、都田西小学校、都田中学校、池辺の自治会に募集をお願いしました。全部で約31点の作品が集まり、その中でこのマークに決まりました。

このマークの中には、実は文字が隠されています。下のクローバーのところが「い」、左側が「こ」、「の」が逆さまになっています。「へ」に点々で「べ」です。「いこのべ」と書かれています。実は我々は現在、「いけべ」と町名を呼んでいるのですが、明治時代は「いこのべ」と呼ばれていたそうです。大正、昭和と時代が流れ、いつの間にか「いけべ」と呼ばれるようになりました。今ではほとんどの方が「いけべ」と言っていますが、正式には「いこのべ」ということらしいです。変更しようというお話もあったそうですが、いつの間にかうやむやになってしまっていて現在に至っているのが現状だそうです。

次に、ここからは今年度行った事業です。これは、元気づくりモデル事業の記念講演として、広中邦充さんをお願いしたものです。現在、報道などで連日、家庭の問題が取り挙げられていますが、この地域では昔から子供たちの行動に頭を悩ませてきました。現在は学校や地域の努力もあり、数年前に比べれば落ち着いてきたと思いますが、いつまた起こるか分からない地域です。そのような中で少しでも参考になればと、広中さんに講演をお願いしました。

広中さんはお寺の住職で、家出、不登校、引きこもりをはじめ、自傷行為などの問題を抱える思春期の子供たちを無償で預かり、現在は約15名の子供たちと共同生活をしている方です。揚々と問題と向き合う住職に、実践的な教育論をお話しいただきました。

その中で、次のような言葉が印象に残りました。「よろこびの心、お役の心、人の幸せを願う心、そして大好きになることが必要」ということをお話しいただきました。この事業をとおして、この池辺町を大好きになってもらうことが必要だと感じさせられる一言でした。冒頭にあった題名の「好きです池辺」も、ここから考えてきています。

また、当日は子供の問題を抱える方々に無料のカウンセリングも行っていたいただき、数組の方が相談をいたしました。

ここからは、未就学児の親から居場所づくりの要望があったことを受けて行った事業を幾つか紹介していきます。

まず最初が、「親子で公園で遊ぼう」です。「公園デビュー」という言葉を聞いたことがあるかと思いますが、これを手助けする事業です。「公園で遊ぼう」は毎月第2火曜日、町内の公園で行っています。参加者はその都度違うようですが、現在では大体20組程度の親子が参加しています。

次に、これはふだん使われていない自治会館と、すぐ横にある杉山神社を開放して行った事業です。今年度初めて2回行いました。当日は幅広く参加者を募集したため、パークシティ LaLa や池辺町以外の参加者もありました。お昼にはカレーを作り、なじみのない参加者同士の新たなきっかけづくりになりました。参加者にも大変喜んでもらいました。

これは親子広場、「親子で遊ぼう」という事業を、都田小学校にあるコミュニティハウスで毎月第4金曜日に行われているのですが、その中で赤ちゃんや幼児に接する機会が少なくなっている中学生に乳幼児とふれあう機会をつくと同時に、子育て支援への理解を深めてもらう狙いで、夏休みを利用して行いました。当日は5名の中学生が参加してくれました。初めはお互い戸惑っていたようですが、最後はすっかり子供やママたちと仲良くなり、みんなが「楽しかった」と話してくれました。この事業を通じて全体的に言えることですが、今のお母さん方は自分から関わりを持つことがあまりうまくないように思います。

次に、町をきれいにして自分たちの町を好きになってもらおうと考えた事業です。これは今から25、26年前の横浜市の下水道事業によって、水路としての役割がなくなった浄念寺川を整備し、地域の人々のいこいの場所として復活させた、全長約800メートルの川です。ですが、近年では放置され汚れが目立っていましたが、今回の事業で愛護会を立ち上げて復活させることとなりました。

子供たちにも地域のつながりと町をきれいにする意識を持ってもらうため、近くの都田小学校の3、4年生の児童たちが、地域の人と一緒に花植えを行いました。季節ごとに色々な花を植えていますが、今年の夏は大変暑かったため、水やりが大変だったそうです。

また、11月にも児童たちに違う新しい花を植えてもらいました。この事業は来年度も学校と協力して、子供たちと一緒に花を植えていくことになっています。

池辺町には都田小学校のほかにもう1校、都田西小学校があります。この学校からは川

が遠いため、自分たちの学校をきれいにしてもらおうということで、学校に花を植えてもらうことにしました。これはそのとき地域の方たちと一緒に花を植えている様子です。これは近日中にまた花植えをするそうです。

次に、これは都筑区百選にも選ばれたそうめん流しです。毎年夏休みに自治会館と隣の杉山神社で行っている事業ですが、今年は多くの人に来てもらうため、都田小学校の校庭と体育館を借りて行いました。校庭に約15mの竹で4レーン作って行いました。

そうめん流しの準備をしている間に体育館で工作教室を行い、それが終わった後にそうめんを食べてもらいました。当日は天気も良く、参加者はふだんより大変多くて、工作教室で約170名、そうめん流しで約350名の参加者があったそうです。

次に中学生の子供たちに、自分たちの町を再発見してもらおうと、映像クリエイター入門講座を行いました。東京都市大の清水由美子教授にお願いして、8月から9月にかけて、合計4回の講座を行い、2分程度の映像を製作する講座を行いました。この映像は一部をダイジェストにしたものです。中学生は4グループ16名が参加しました。基礎的な部分を先生に講義してもらい、各グループごとに、大学生のサポーターに入ってもらい、サポートをしてもらいながら行いました。実は、これは4回では終わらなくて、その後自主的に何回も集まり、サポーターもなく、私と先生方と一緒に何とか完成したのが10月の後半ぐらいでした。まだ子供たちにこの完成品を渡していなくて、私の課題となっております。

このほかにも、健民祭や自治会の盆踊りなど自由に参加してもらい、この事業をアピールしていきました。

最後ですが、私の所属していますおやじの会が、コミハウ祭りのときに小学生以下の子供たちにおもちの無料配布をしたものです。毎年、中学生にはPTAが行っているイベントのときに、小学生にはコミハウ祭りで、無料配布を行っていたのですが、今年度は小学生以下ならすべての地域、誰でもということで、おもちの配布を行いました。

以上が今年度行った活動です。その中でこの活動のポイントとして、次のことが挙げられると思います。地域のリーダーとの信頼関係、各自治会と各組織の連携、地域の才能のある人材を生かす、地域の施設の活用、行政との協力体制、補助金の意義、すべて重要なポイントだと思いますが、上の4つは活動以前からこの地域では少なからず活動していたポイントですので、今回のこの事業でいつもと違う最も大切なポイントとして、私が考えるのは行政の協力体制と補助金の意義だと思っています。特に補助金はこれらの事業を始めるにも、また継続していくためにも本当に重要なことだと思っています。

この事業で次の成果があったと考えています。各組織との連携強化、新しい住民との交流、子育てママたちのネットワーク、新しい自治会の設置に向けての支援、新しい人材の発掘ということが挙げられると思います。

特に、子育て支援によるママたちのネットワークができたこと。お母さん方が、こういう機会がないとなかなか集まることができないと言っていましたが、今は自分たちでもネットワークをつくっているようです。

また、パークシティ LaLaなどで自治会新設の動きがあったことも、非常に成果が挙げられたことではないかと考えております。

最後に次年度に向けての課題ですが、次のようなことがあります。既存事業の継続、新しく始めた事業の引き継ぎ作業、行政等の補助金の活用、新しい人材のさらなる発掘、地域の連携の強化ということが「次年度に向けて」にあると思います。特に、既存の事業は今までやってきたものなので良いのですが、新しく始めた事業は、補助金等の問題もあるので、どのように動いていくかはこれからの課題だと思っています。

以上が池辺地区元気づくりモデル事業協議会として行ったことです。御清聴ありがとうございました。